

Z会進学教室 葛西通信 2月号

葛西教室に通う本科生の皆さんは、以下の四点を心がけるようにしましょう。

- 1 進学塾に通う中学生としての自覚を持つこと。
- 2 信頼の土台となるあいさつをきちんとすること。
- 3 書くことを大切に、ノートをしっかりとること。
- 4 自習室を上手に利用し、自分で考えてもわからないことは遠慮なく先生に質問すること。

葛西教室より

葛西教室の先生の声をお伝えします。

「父と私」

英語 館野玲子先生

葛西教室で教え始めて半年未満ですが大きな顔(?)をしている新人の館野です。このたび、教室スタッフの先生方から無言有言の圧力をかけられ(←大袈裟です)、こちらに駄文を寄せる運びとなりました。無趣味無教養な人間ですので題材に困りましたが、スタッフの先生方の「テーマは『なんでも』良いです!」という言葉が英語のanythingと解釈し、自分が最近よく考えている、亡くなった父(と私)のことについて書くことにしました。(ちなみに、英語学習者の皆さん、any-のつく言葉は、やたらに肯定文で使わない方が良いですよ。「例外なし」を意味しますので、真に受けた相手からナニモノを持ち出されても拒否できなくなってしまいます。)



私の父は、バリバリ理系の一級建築士でしたが、もう二十数年も前に「まあまあ長生き」と言われる年齢で亡くなりました。計算の速い方はこのあたりで「ん?」と思われるかもしれません。私(と妹)は父がかなり年齢を重ねてから生まれた子どもでした。私がものごころつくころには父は既に客



観的に「おじいちゃん」でしたから、父と一緒にいて親子と思われたことはまずありませんし、実際、いわゆる世間一般的な、「パパの運転する車で家族旅行」というような家庭の姿は我が家にはありませんでした。

今でこそ「年の差婚」などという言葉が普通に使われ、日本の芸能人やトランプ前アメリカ大統領の例なども日常的に見聞きできますが、当時は手に入る情報も限られていましたし、「半径数キロが世界のすべて」の「昭和の子ども」にとって、自分の家庭が何かにつけ「ほかのみんなと違う」というのは、人格形成上かなり影響があっただろうと今でも思います。



さて、この父ですが、性格は真面目で不器用、そして頑固そのもの。世代や年代のせいもありますが、人前で笑うことなど滅多になく、怒ったらそうとう怖い。おそらく外の社会においてもそうだったと思いますが、特に家庭においてはかなりの難物でした。また、職人気質と言いますか、仕事への熱意とこだわりが人一倍強く、英語で言えば He was more an architect than a business manager. 会社を営んでいるくせに、のめりこんだら採算度外視。一級建築の会社ですので地元の学校や公共団体の建物や体育館の建設を請け負うことが多かったのですが、いざとなると入札価格など忘れたかのように資材も手間もかけてしまい、最後には「俺の給料は要らない」という形で埋め合わせをすることもあったようです。ちなみに、そんな父の姿勢に母はしばしば不機嫌な様子でしたが、今では母の気持ちもよくわかります。幸い、私たち子どもが育つ過程においてお金に不自由したことは一度もありませんでした（←まあ当然と言えば当然？ですが、父の仕事ぶりは施主には大変評判が良く、仕事の依頼は絶えなかったようのですが、当時の母は気苦労が絶えず、将来が大いに不安だったことでしょう。

ところで、このように印象強烈な人物とは言え、亡くなって二十年以上も経ちますと、日常生活で父のことを思い出すことなどほとんど無くなってきました（←おとうさん、ごめんなさい）。しかし、この年末年始で急に父の存在が近くなるできごとがあり、生前の父のあれこれを思い出す「心の旅」が始まってしまいました。

きっかけは昔からの友人の言葉です。年越しの挨拶かたがた、LINEでポチポチとあちこちに近況報告をしていたのですが、ある口の悪い友人（＝言葉遣い以外はいたって優しい常識人）が「どーしてあんたはそう、いつもカネにならない仕事ばかり?!」「また出た、採算度外視～」と私の仕事を評したのです。自分にそのような認識がまったく無かったので、初めは「え～なんで？」とか「でも楽しいよ～」「自分のためにもなるし」とか応じていたのですが、途中でふと、彼女の使う言葉が往時の父の評価とピッタリ一致することに気が付いて、しばし茫然としてしまいました。「あれ？ 実は私っておとうさんに似ている??？」



小さいころ、父に顔が似ているとはよく言われましたが、まさか性格や生き方の方で自分が父に似ているなどとは、思ったこともありませんでした。世代も性別も職業も行動も、父とは何もかもが違う！とばかり思っていました。友人の言葉をきっかけによくよく考えてみたら、どうやら一番大きな部分が父にそっくりだった・・・と、これはもう、何十年と生きてきて初めての、実に驚くべき大発見でした。



そのとき友人の言っていた、私の「採算度外視」は、塾の生徒や元教え子たちの英文添削や家庭教師先のための教材作りのことでしたが（英文添削や教材作りは、学校教師時代にもずっとやっていたことですが）、実は私自身にはまったく採算度外視という意識はなく、それ以前に「採算」そのものを考えてもいませんでした。ただ「自分がそれを必要だと思ったから」「やり甲斐があるから」

「やって楽しいから」「求められたので」「相手が喜んでくれるから」などの理由で進んでやっていただけです。（逆に言えば「それをやらないと何かが欠けているような気がするから」ということもあるかもしれません。）

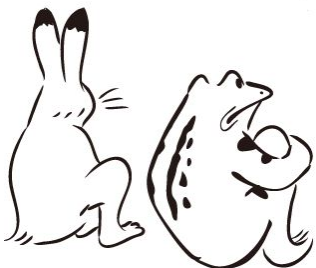
と、ここまで考えたら、ようやく生前の父を本当に理解できたような気がしました。

採算度外視で仕事をしてしまう父を、母や、多少ものがわかる年齢になってからの私たち子どもは「まったく、おとうさんは！」と思って見ていましたが、父自身はただまじめに、ひたすらに、そして何より幸せに、仕事と向き合っていたのだなあ・・・と、初めて父の立場に立って考えることができました。（まあ、これも程度問題で、もしそれで自分や家族の生活が立ち行かなくなるようだったら、そんな悠長なことは言っていられない！わけですが。）



父はもうとっくにこの世を去っていますし、もし今ここに（魂や霊が？）いたとしても、生前の父と私の関係では、どこかよそよそしくてしみじみ言葉を交わすようなことはとても考えられないのですが、それでもここ最近、父にもし「ともだちが見たところ、どうやら私はおとうさんにそっくりみたいだよ」「お父さんの仕事に対する気持ちやっといういろいろわかってきたよ」と言ったら、どんな

顔をするだろうか？と考えています。世代が世代ですから、決してニッコリという笑顔にはならず、照れを押し隠すように苦笑いするのではないかと思います。



スケジュール

月	日	曜	受付時間	授業・テスト・模試など				保護者会・研究会など				
2	1	月	14 ~ 22									
	2	火	14 ~ 22									
	3	水	14 ~ 22									
	4	木		休室								
	5	金	14 ~ 22									
	6	土	9 ~ 22						新中1対象「Z会進学教室からの離開高校受験」 14:00~15:00			
	7	日	9 ~ 21	2月度②								
	8	月	14 ~ 22									
	9	火	14 ~ 22									
	10	水	14 ~ 22									
	11	木		休室								
	12	金	14 ~ 22									
	13	土	9 ~ 22		国立大附属高校入試							
	14	日	9 ~ 21	2月度③								
	15	月	14 ~ 22									
	16	火	14 ~ 22									
	17	水	14 ~ 22									
	18	木		休室								
	19	金	14 ~ 22									
	20	土	9 ~ 22									
	21	日	9 ~ 21	休講日	東京都立高校入試(一般)	2V 2月度 実力テスト	2K 2月度 実力テスト	1V 2月度 実力テスト	11:00~12:00 春期・本科説明会			
	22	月	14 ~ 22	休講日								
	23	火	14 ~ 22	休講日								
	24	水	14 ~ 22	休講日	千葉県立高校入試(一般)							
	25	木		休室	千葉県立高校入試(一般)							
	26	金	14 ~ 22	休講日								
	27	土	12 ~ 22	休講日								
	28	日	9 ~ 21	新中2・中3年生 3月度①					11:00~12:00 春期・本科説明会			
3	1	月	14 ~ 22									
	2	火	14 ~ 22									
	3	水	14 ~ 22									
	4	木		休室								
	5	金	14 ~ 22									
	6	土	12 ~ 22									
	7	日	9 ~ 21	新中2・中3年生 3月度②	新中1 3月度①							

Z会の教室

Z会進学教室 葛西教室

〒134-0084 江戸川区東葛西 6-2-3 第三須三ビル 6階 TEL03-5878-0844

受付時間 平日 14:00~22:00 日曜日・講習中 10:00~20:00

『葛西通信』の記事(バックナンバー)はWebからもご覧いただけます。

Z会 葛西 [検索](#)